

上州富岡駅舎設計提案競技

空間の提案

養蚕の道具として使うまぶしを駅舎のデザインモチーフとすることで、安定した格子状の構造とした。四角い格子の中を曲線の曲線で削り取ることで、空間を作り出し、富岡の養蚕の歴史を駅に落とし込む。マブシをモチーフとした格子の構造は木造とし、木のあたたかみを感じさせ自然豊かな地域との調和を図る。また、外部をガラスで覆い、和紙を貼ることで光を拡散させ、奥の中にいる感覚を作り出す。

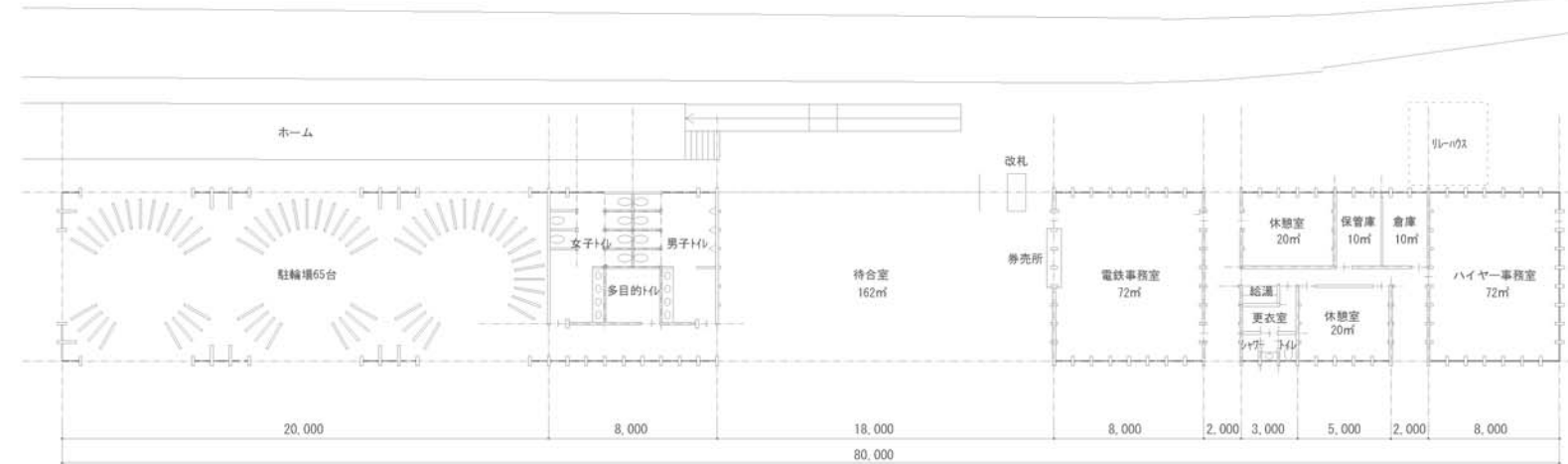
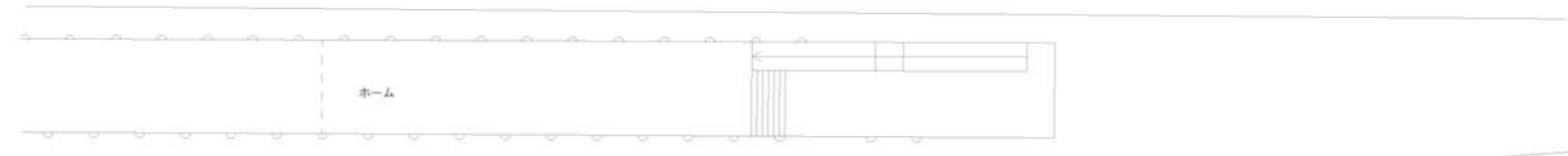
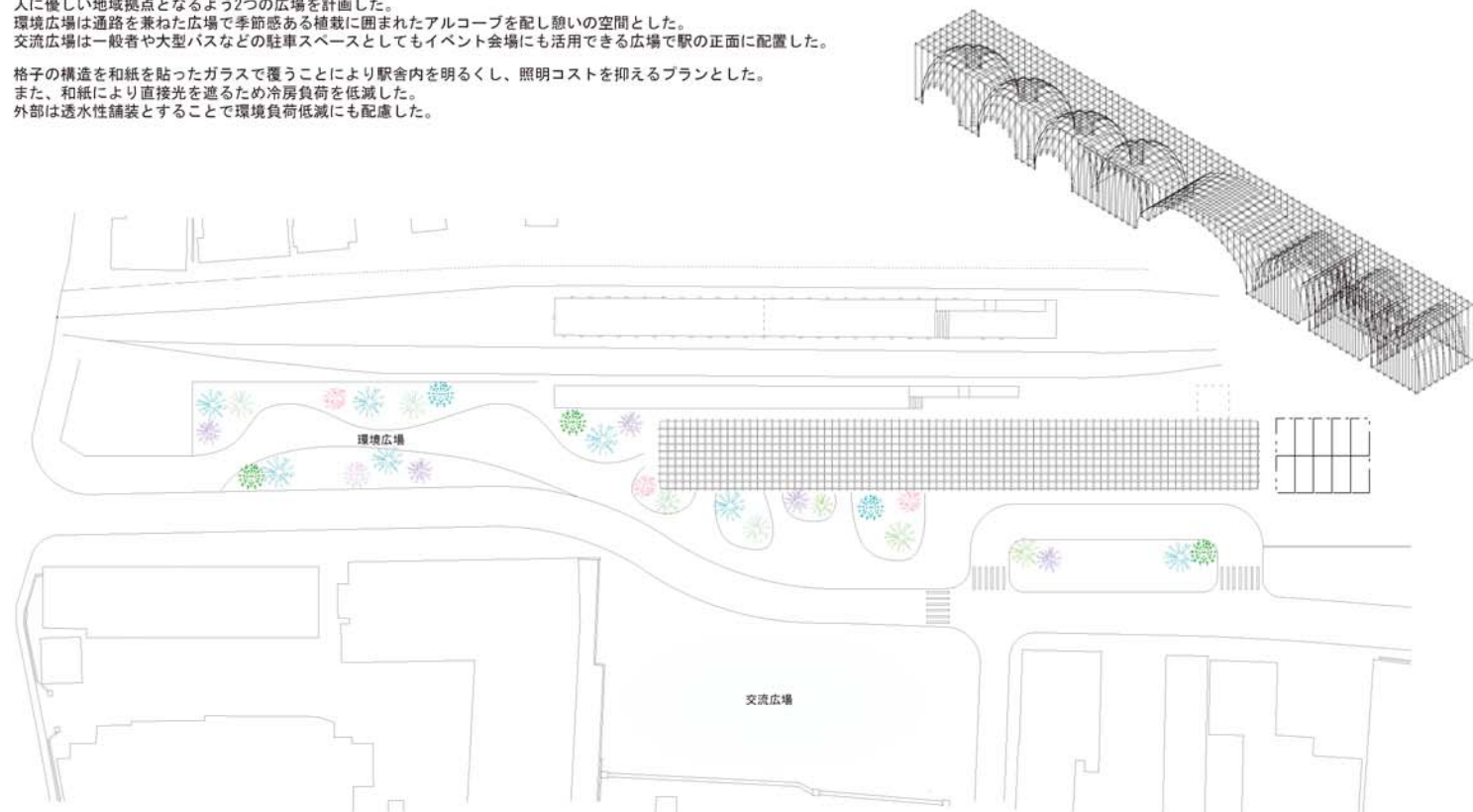
日本の伝統である木質構造と柔らかな光を演出する障子にならった和紙による空間の演出で世界中から多くの人を訪れる世界遺産の玄関口にふさわしい駅舎とした。

人に優しい地域拠点となるよう2つの広場を計画した。環境広場は通路を兼ねた広場で季節感ある植栽に囲まれたアルコーブを配し憩いの空間とした。交流広場は一般者や大型バスなどの駐車スペースとしてもイベント会場にも活用できる広場で駅の正面に配置した。

格子の構造を和紙を貼ったガラスで覆うことにより駅舎内を明るくし、照明コストを抑えるプランとした。また、和紙により直接光を遮るため冷房負荷を低減した。外部は透水性舗装とすることで環境負荷低減にも配慮した。



まぶし



平面図 S=1/200



立面図 S=1/200